



山ノ口
人ノ門

平福

七十六
山ノ口
親和家



安永三乙未歲

元旦

三度目濃糴ひりち稻系飾菓自在菴 祇徳

餅小壽乃字を弐る筆祇井

四方此鳥妻美れり美を啣り天沾嶺

寶英文庫



行年八十九叟

暗朝画

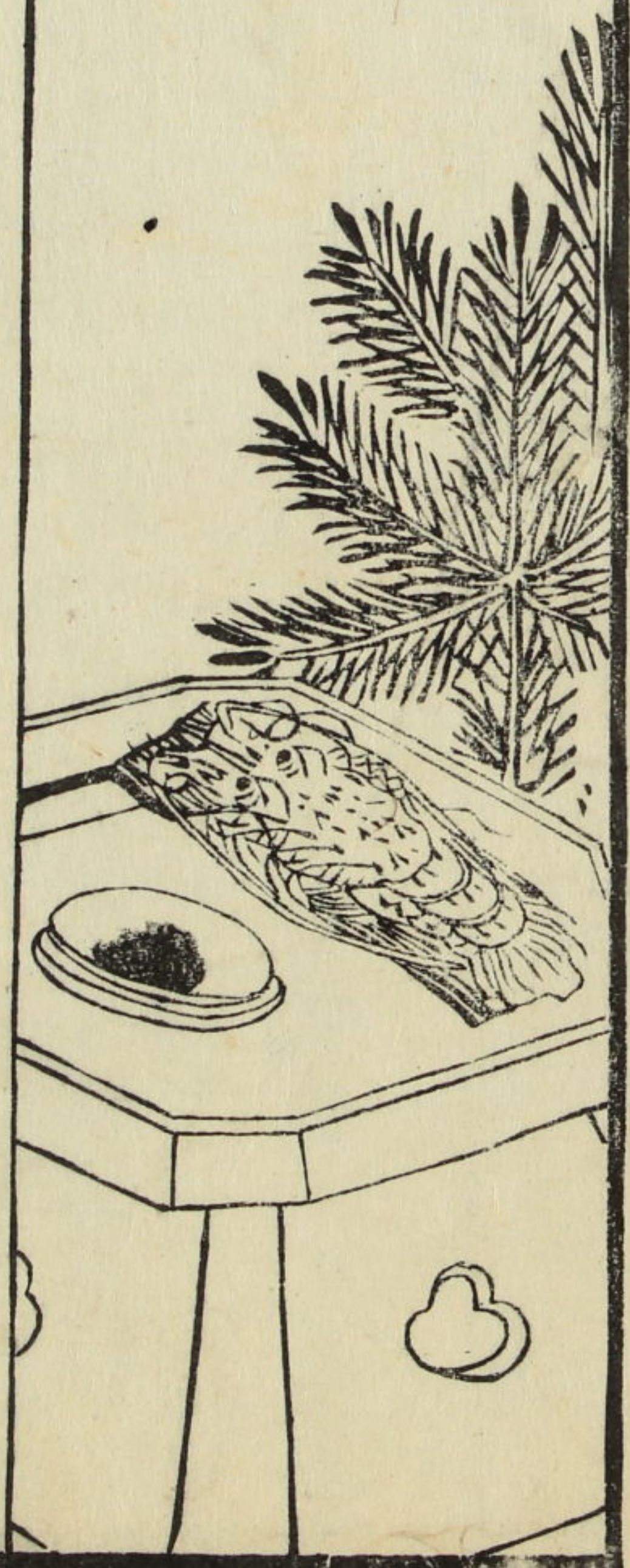
暗朝画



改メ如色れ清さよ 挂下籠壽樂 松れ春 泊山嶺

御 詰 長 宗 小 霍 の 舞 の 天 祇 徳

年 計 際 小 川 筋 小 猪 牙 け 走 が 全
櫻 女 し か ー こ じ ゃ 梅 の 枝 け 振 全



元 日 や 布 衣 け 素 足 も 海 老 け 色 銀 鷺

霍 も 大 手 け 御 親 式 け 春 祇 徳

季 の ち 世 も 少 々 々 々 年 暮 ぬ 全



園園一般乃書之かき
 戯場の強ひこき

月村

く川をんやたきぬ後これ袂より米翁

元千年流るるも御飾

祇徳

晋子々各月の影をこもる
 もちつき白雲れく子柳氣全



祇在菴

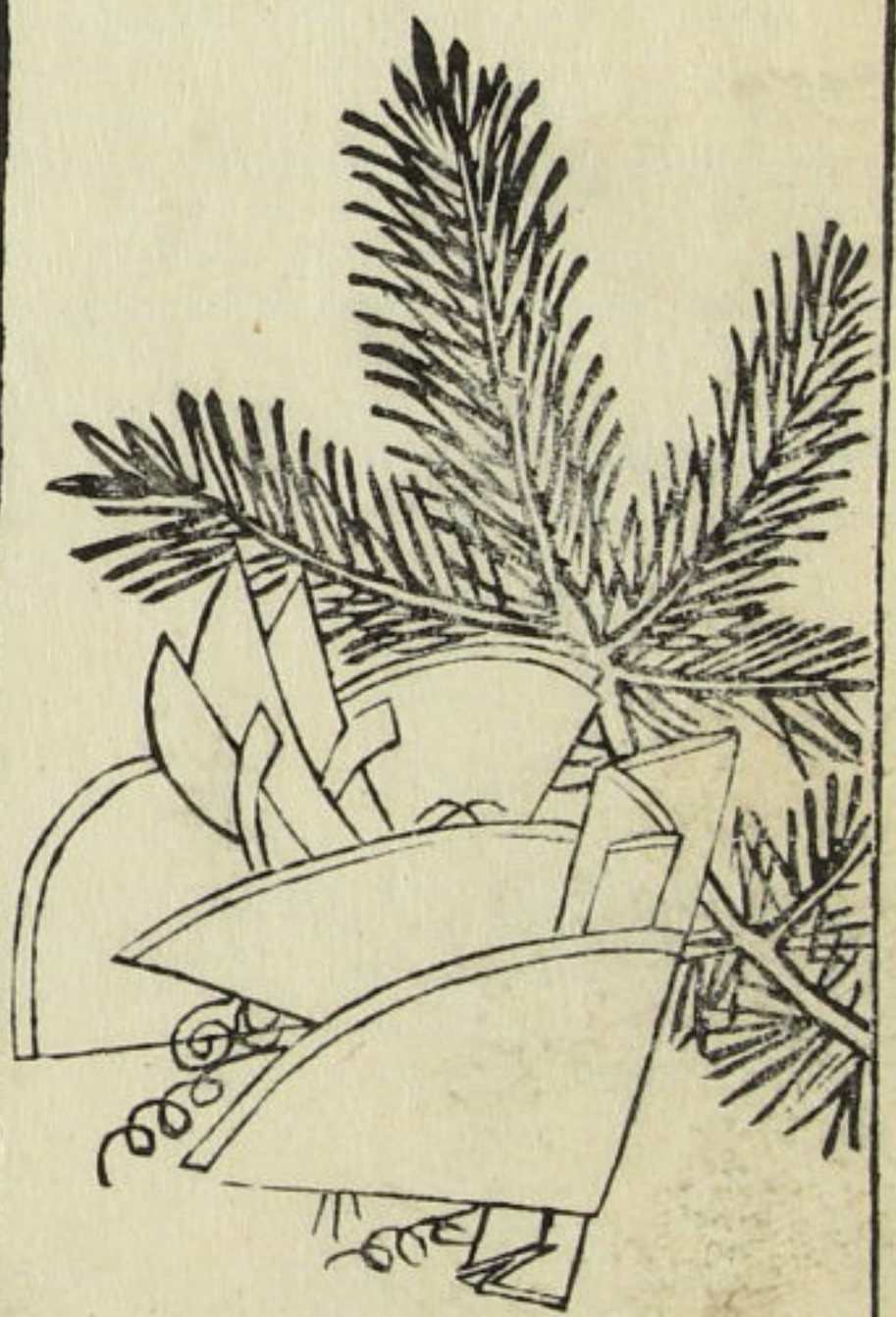
さくくとつや東書け御幸便申棠

御松飾は玉彦此一死

祇徳

くま夢や録もくは市全

九十九夜通るあきあり梅門全



蝶々雌雄むつるる庭蔭に酒傘露

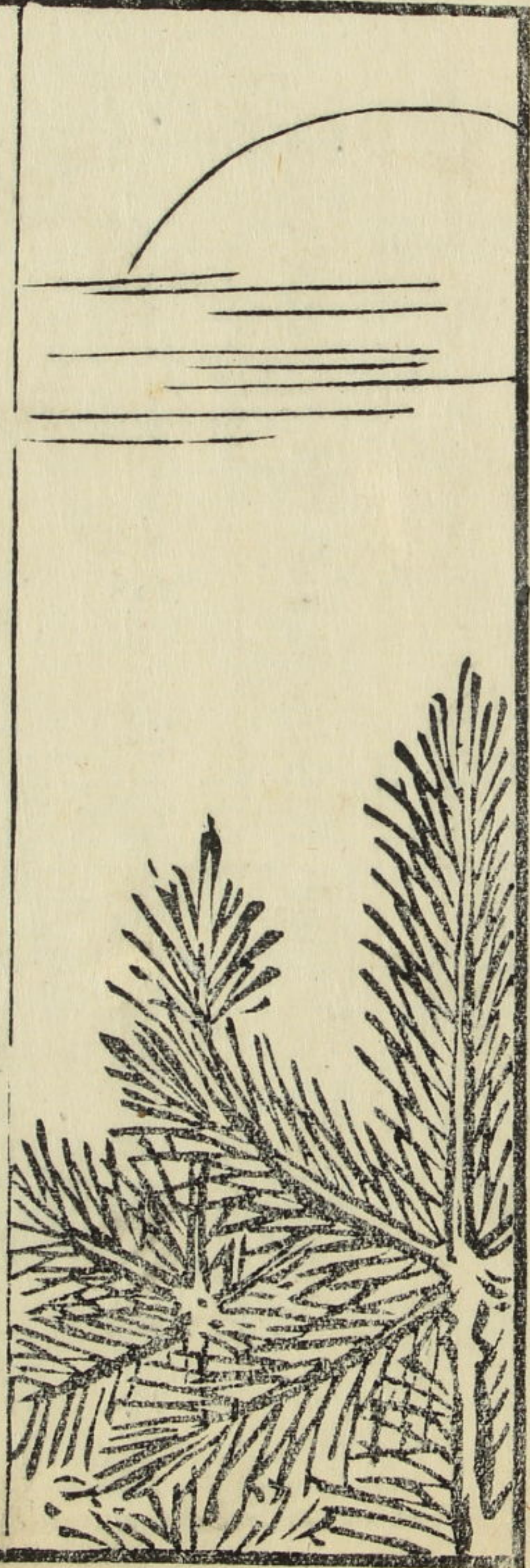
澄江館

霍れ御紋も千載乃春

祇徳

七寶に窓明き夢の梅の宿全

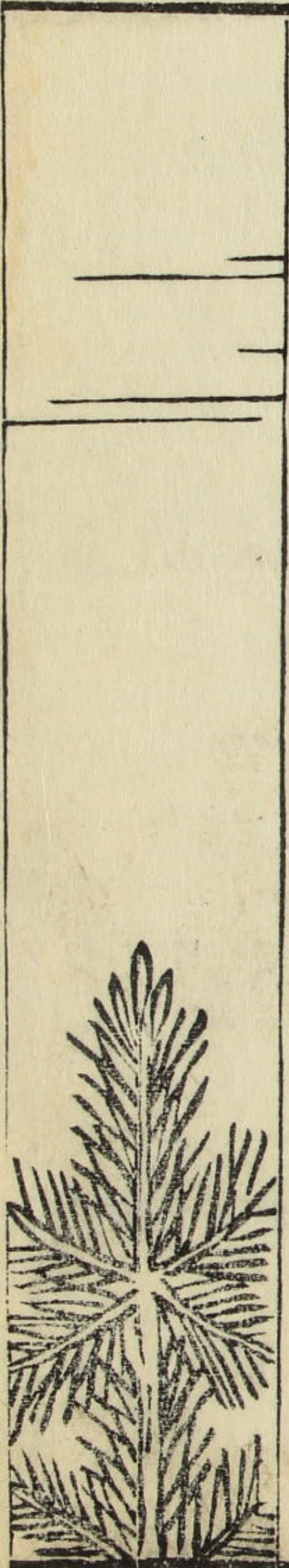
啼んと鳥をて支度や大晦日全

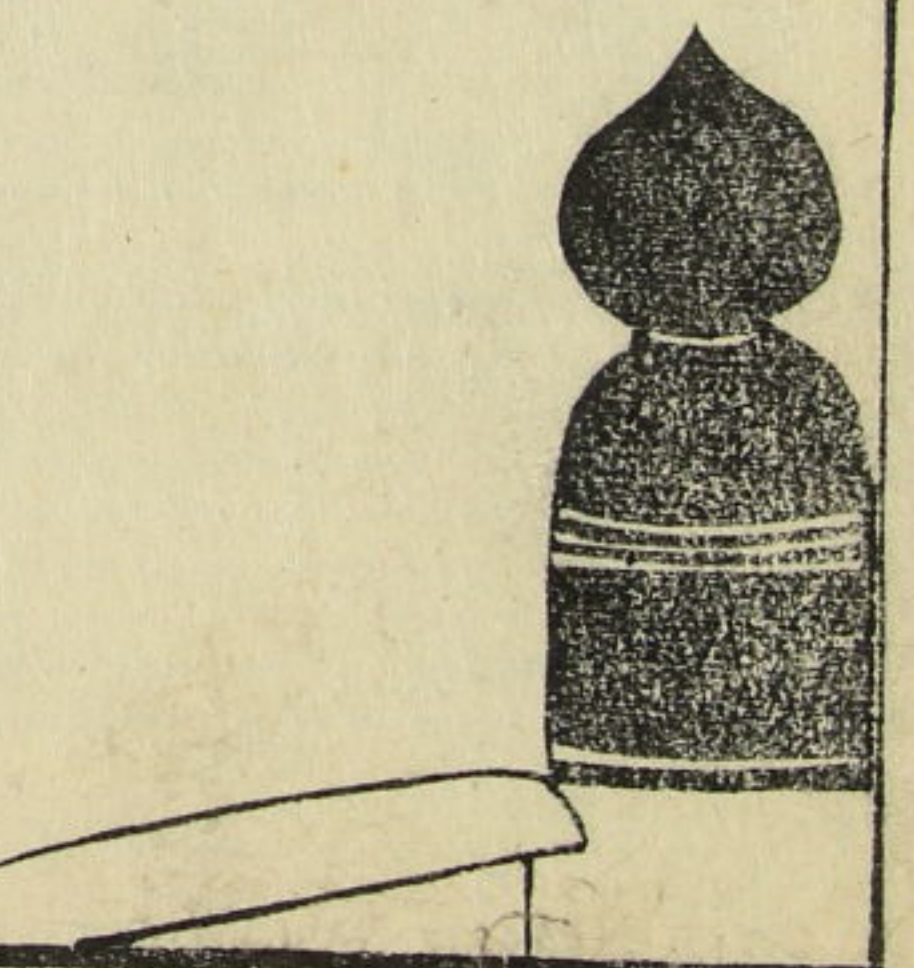
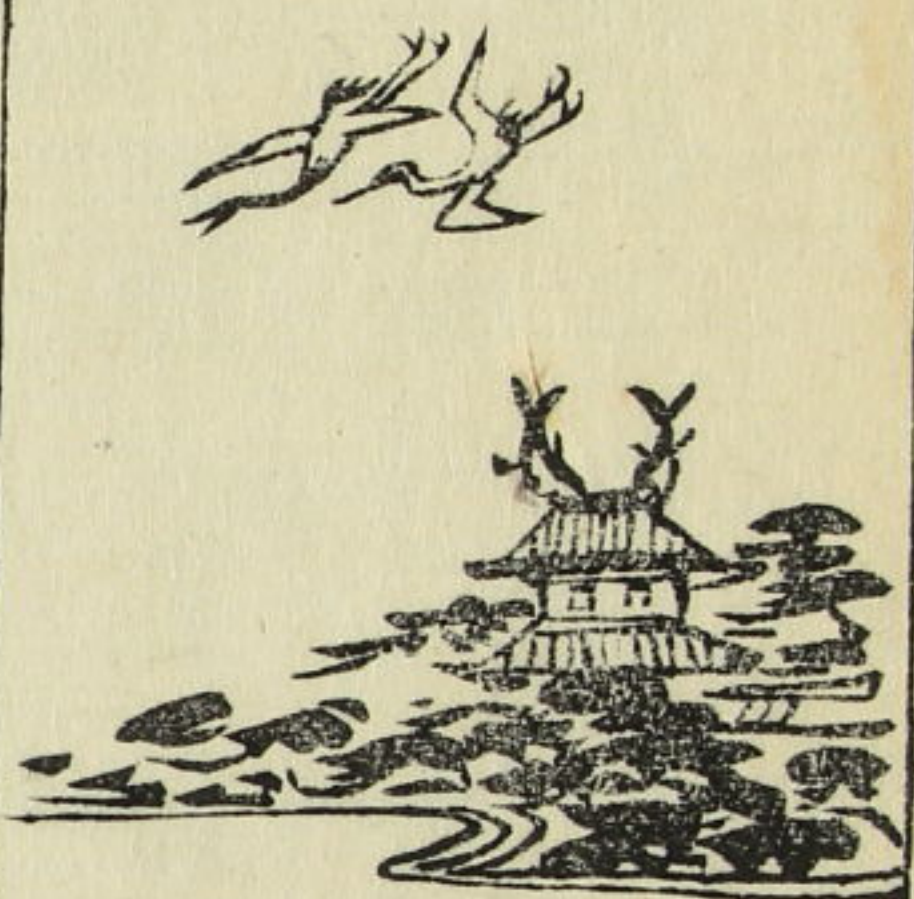


月やなまよひに満ちる松の春白鶯嬌

百雀遊子御庭際

水徳





五

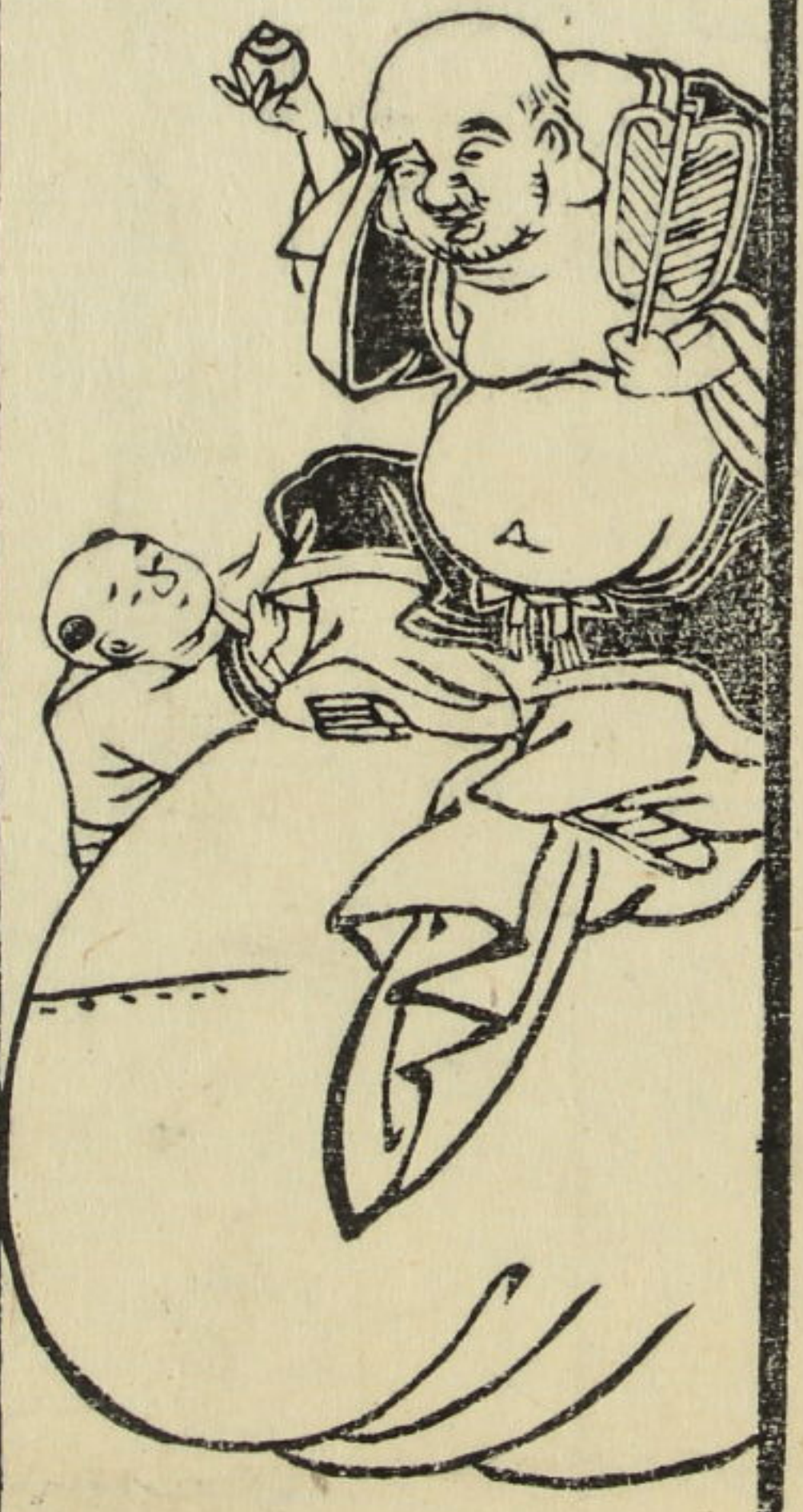
人足小塵も妾を江戸の春亀文

五鶴此卯日小紫御幕

祇徳

園も喜小雨戸透多白梅の若全

碎去子年あゝ八門出せ年忘全



街棠中櫻ハと匂花乃春星々庵祇井

御書始々大篆此霞

汝徳

尺時計積留哉春邊一二寸全

小松びくちゝゝ何ゆゝ女童全

六

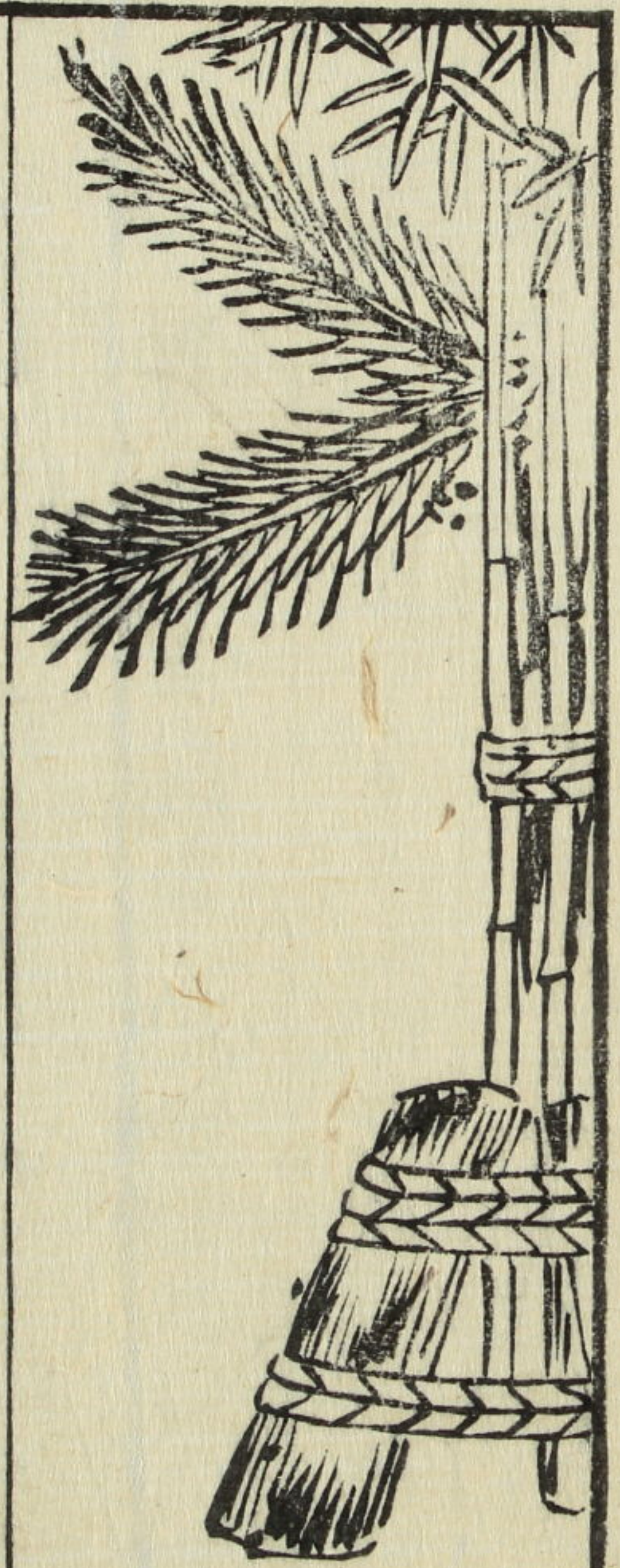


若水や也催きふる月峯月庵れあ心祇喬

羽とのよを産れぬ御飾

祇徳

仙人もさひの外に手懐き全
今朝解し雪れ柳の雪かり全

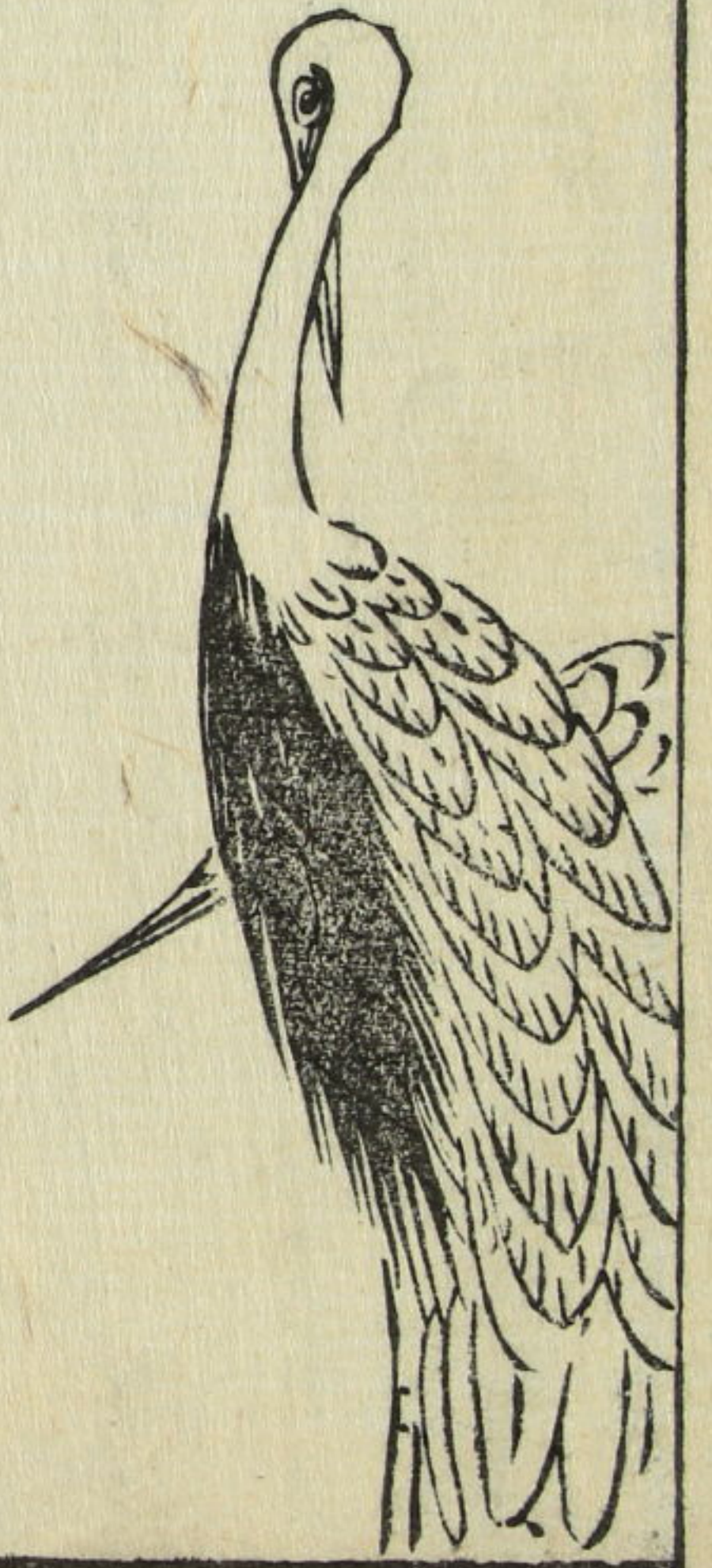


むつまや睦し月や松と併魯笑

女丈夫産産れ御家蓬菜

祇徳

住吉と住吉と宝乃市ハ御出や全
標鳥れなと集あつ春の興ハ全



新室よ春と逢ふ

祇風亭

しらふ羽と摩身月や霞は瀾長

御家長閑年松樹千年

祇徳

雲れ外ふ股のまきよワふるつと全

糸もの小蒼白燈や海の梅全

吉例

之

歳旦



朝陽館

松のゆとあすの法つ二庭の鞠李蹊

御方箸も実を佳れ此角

祇徳

水子乃志つと知るは年の鞠全

ちるも内とこ葉四葉のまきあが全



門松白ソリを嘉例に慶多奉扇

産御様御唐後土器

祇座

病ひとハ余亦死けく年の暮人

嘉例之

祝吟



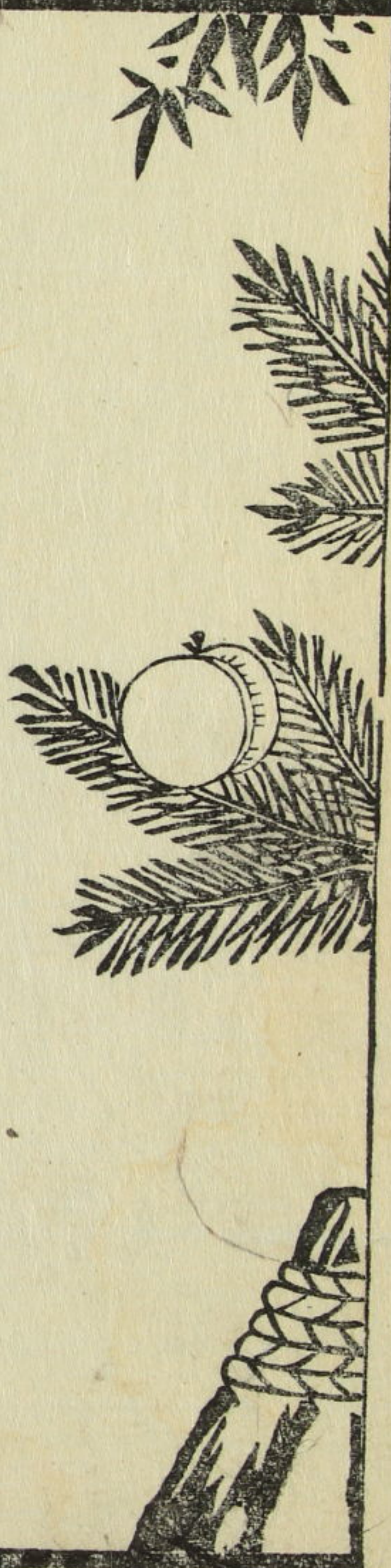
萬代の業ハ松乃初里郷改り 李崎

御惠ふ小舞産つる園

祇座

やまゆわのまふいふは月のり全

申らうさよ女小あまんのを配全



門松や足も今も此の柱喜久山祇貞

霍を夫とよ即家系此

祇徳

更鐘待送ハ我ふと斗惜と 人エ

哈も金をうる事や江戸の美人 人エ

軸



清江齋

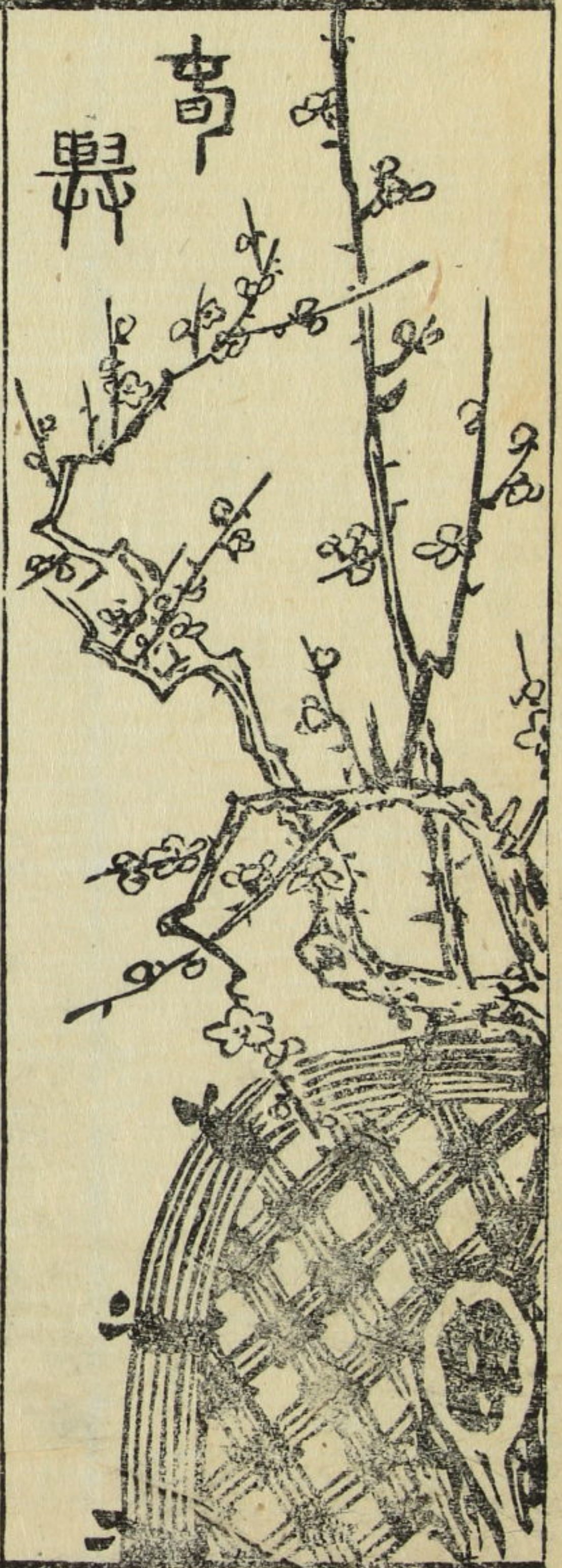
赤賣の松くまきとて人の御慶が 甲長

君々恵はくえ旦の霽

文彦

山くまきとて人の御慶が 甲長
 赤賣の松くまきとて人の御慶が 甲長
 赤賣の松くまきとて人の御慶が 甲長

乙



高
興

樞牘

折竹書く金きぬのしる庵の梅

祇徳

新ぬくろとほ 学 祇可

富士竹坑波笈の機嫌も調く尾跡



松竹小千代のいさみや日の始 百花園 伯貴

御神極乃玉福壽牝

祇座

松のよき年け梅えり花のほほ 人



まろくし惠方小富吉初日出 一松

御名もいの字よ門ま松

松江

ふ梅乃心も叶の笈歌の那 人

伊勢西のいあれ年とあ 人



あかしや笑顔の月と福壽州 祇貫

法信



運も日も開くまや今朝の春 吳來

法信

はなも福壽州御入仕障
是代名ぬいそりたるむやあまの春の全
ふる所ものも一あまの年忘れ全



千代と碎竹松ハ松交け春 祇翠

法信

に^{さる}たりと梅も御庭の指
△斗の庵の玉戸孔雀もあまの春



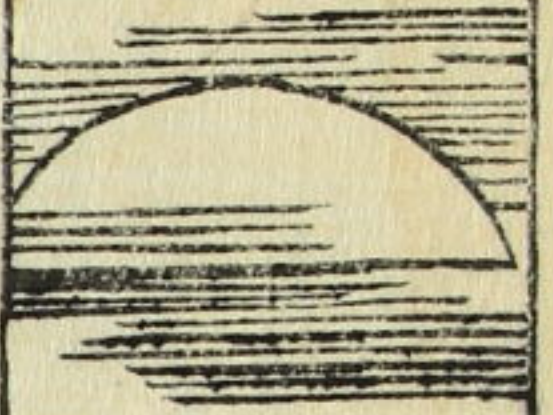
水光言

いさらしを数寄屋に侍人今朝の春 亀時

祇徳

ほ^さらし飾る御嘉例の春
春竹乃葉筵もあまの春忘れ全

上



今朝見ゆ人も花く初日虫兔明

親子いどり即紋非柳の春

決意

年の夜中ゆき續きし後妻世全



あつるや一富士二鷹三所代の身 祇亮

今年也とくくくくくくくくくくくく

決意

くは尾中かゝりぬ市に飾物全



恵方見—上下を和初日影 吳明

卯年買尔即意ぬ道逢年

祇座

恵方見—上下を和た所る 全



如月窟

華道もめり川を春は露の丸 翠長

露は糸糸も即意ぬきの山

決意

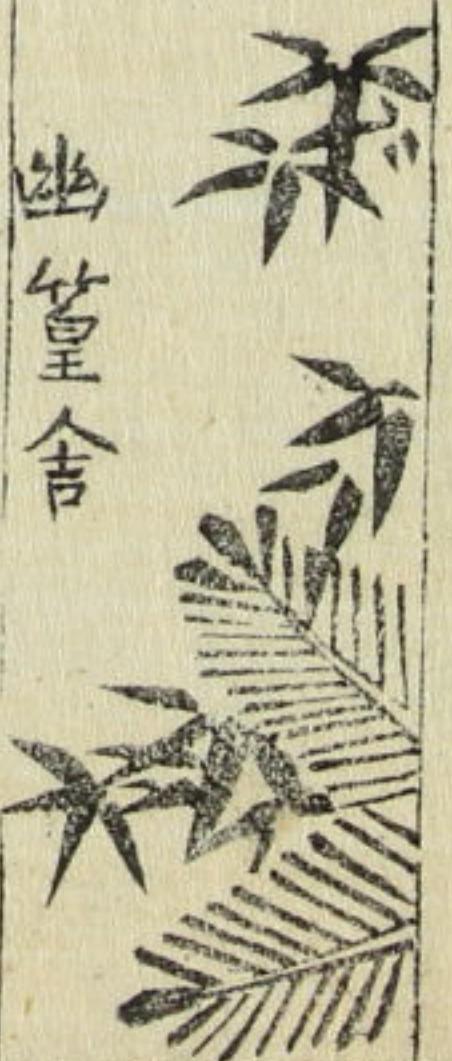
餅花と歌き合ふり宮内は孫 全



松の梅竹の香もあつたる多 亀歳
この御縁の心実なる味

祇止

窓の塔のまはく除夜の籠の筆全



幽篁舎

大空ハ睦月正の雲十住七連五飾三順翁

善十二くも十三よく四可九乃六御二年二始二 中服小 祇止

花十や十心十乃十花十と十乃十御十年十始十ハ全
早十御十年十始十ハ全

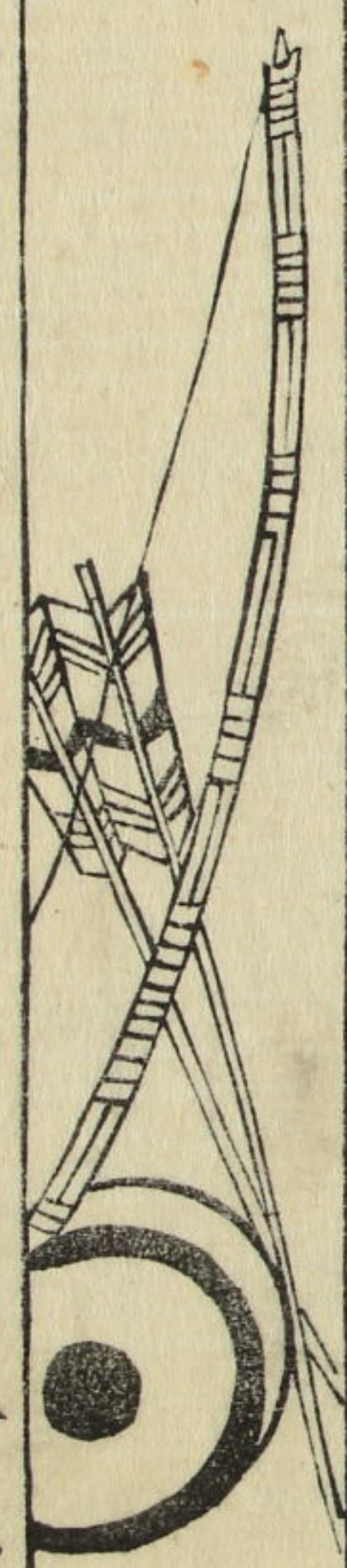


祇春齋

心十乃十御十年十始十ハ全

御書院飾 君々 草花 祇止

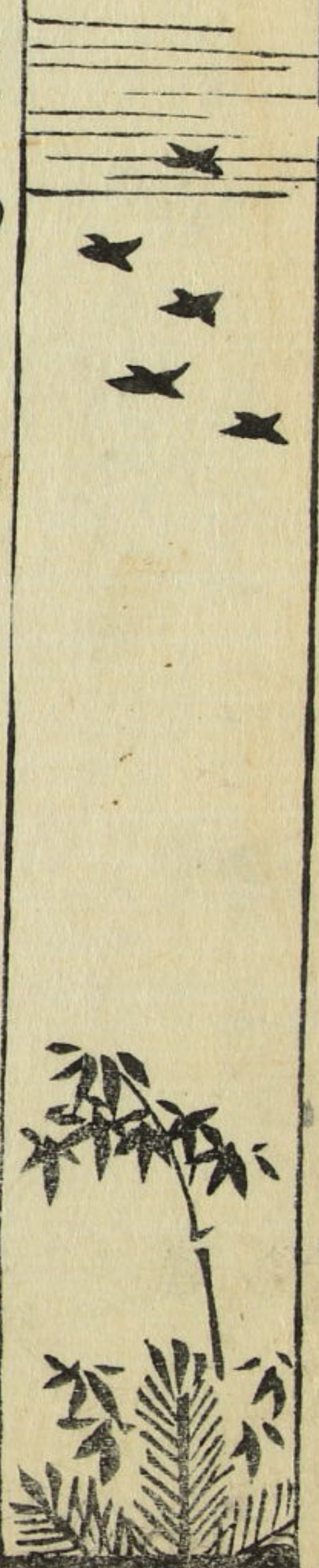
乃十御十年十始十ハ全



神十乃十御十年十始十ハ全

御馬場一面茂る 祇止

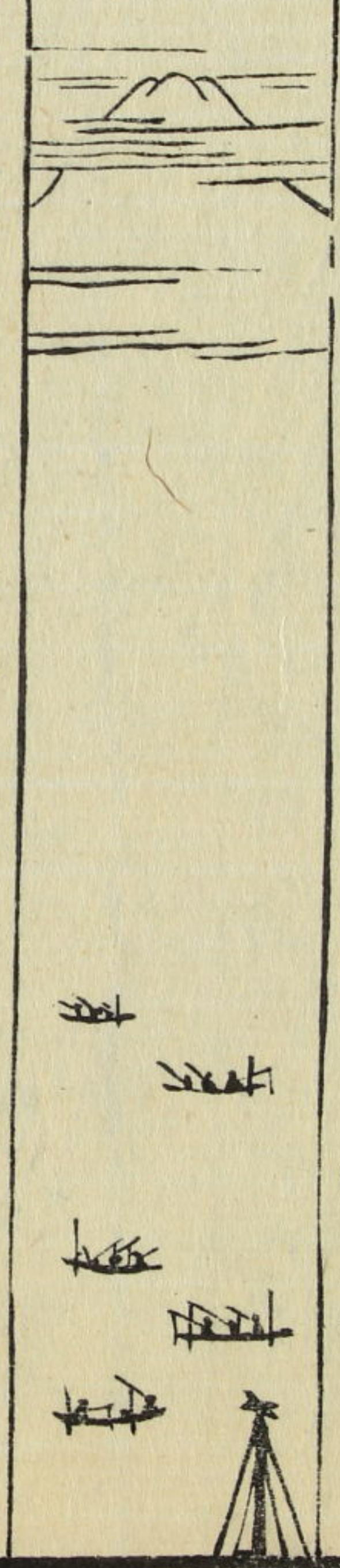
大乃中の書十乃十御十年十始十ハ全



鳥のくもめ影や花の妻は去去月々

肩衣と帆は水く御手始 法位

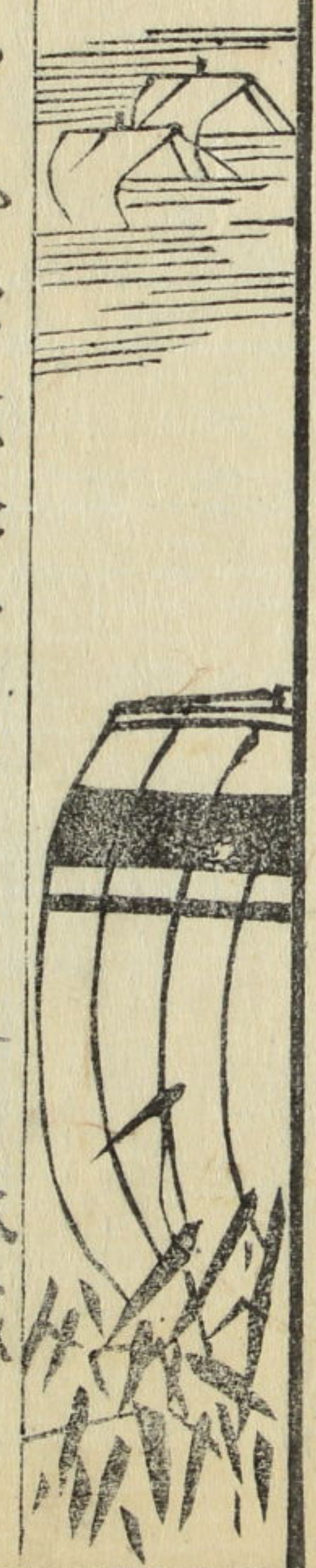
くお市は一の宮よ此日私全



先へ入る多士面をくあ子船芦舟

くく松は笹御代の妻 法位

惜りくも清原くふ年も言えり全



掉むくふ船系始戸あき方道 祇城

御樓は梅 掲 然 法位

梅窓戸迫及通く 楳の上 全

寶積くまけくや年は吉也丸 全



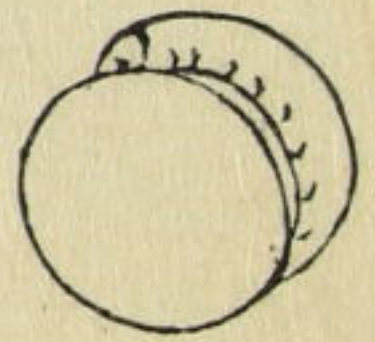
時得くも霧乃 翠や玉の妻 桂龍

のぼりりり惚 御膝 双六 法位

揚々如まくりや今年は土俵際 全

迎きあう鞠道子

ころり
さしき



平ヶ門も二本松く鞠の妻
御慶日おも此糸乃空

柱下
此位

言是を接くハもとくは柿ノ子
鞠管乃まろく申是也大凡日

全全



快く霞晴種多り今勅曇 祇月
御事子系梅も十分

此位

一村ハは種多り毒の花
子福ハハを及得くり年の布

全全



壽と鈍き 硯 も玉の春 龍成

御庭乃 龍 此 此位

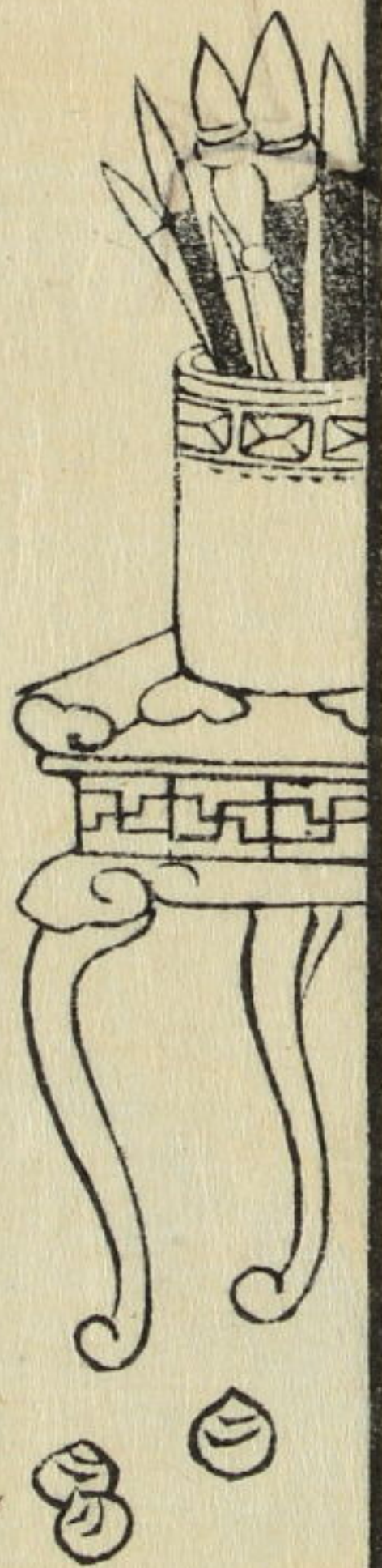
浦の子も一ゆりくくも常福
夜ふてハ師是まふお冠 師 全

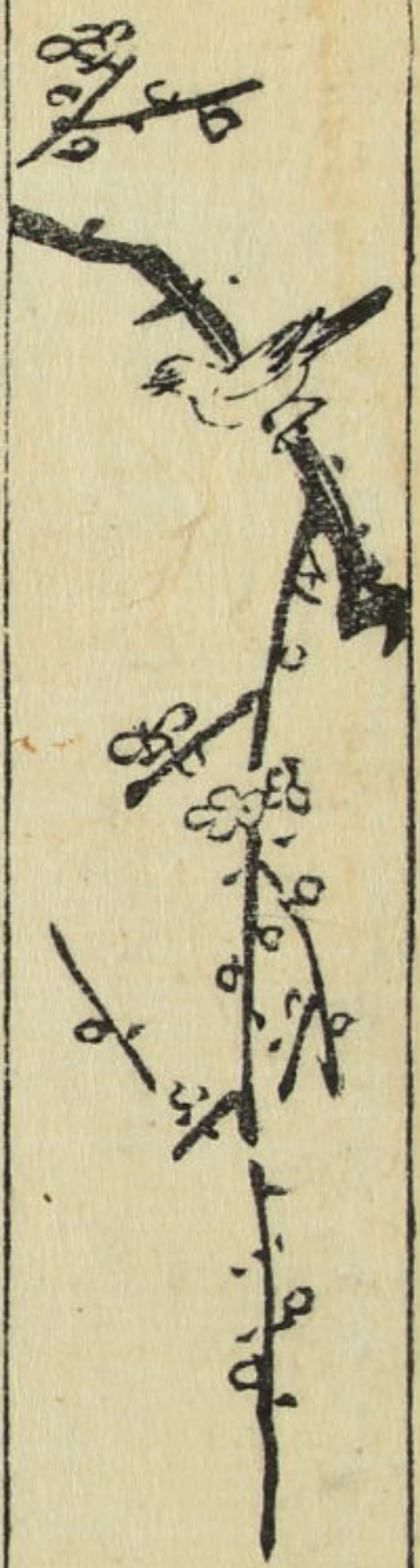


まはく御代のまや松 饅 木子谷

君や 壽く 太夫 花 此位

まはく 御代のまや松の
色 全





嘗も逃玄体ハ今朝の妻仙芥

即丈其屋子乃く光る由

法住

心入ちや行くと教代言全



法文西

高砂も掃く如日ハあり松の春祇鶴

晴くけく即と年始の式

法住

其ととく出る者もあり煉拂全



光系も十三月ハ富貴れ妻女紀春

即庭子ハ雪子白く梅く枝

法住

餅搗ハ鴨在り上乃より丹山全



咲降く福あり壽あり花の春祇稻

即掃く穂も長宗ありが

法住

餅花中出り枝と京玉産全



自大庵

雀の羽の若新登岡ハハ花の去祇可
蓬菜飾る御水吉例

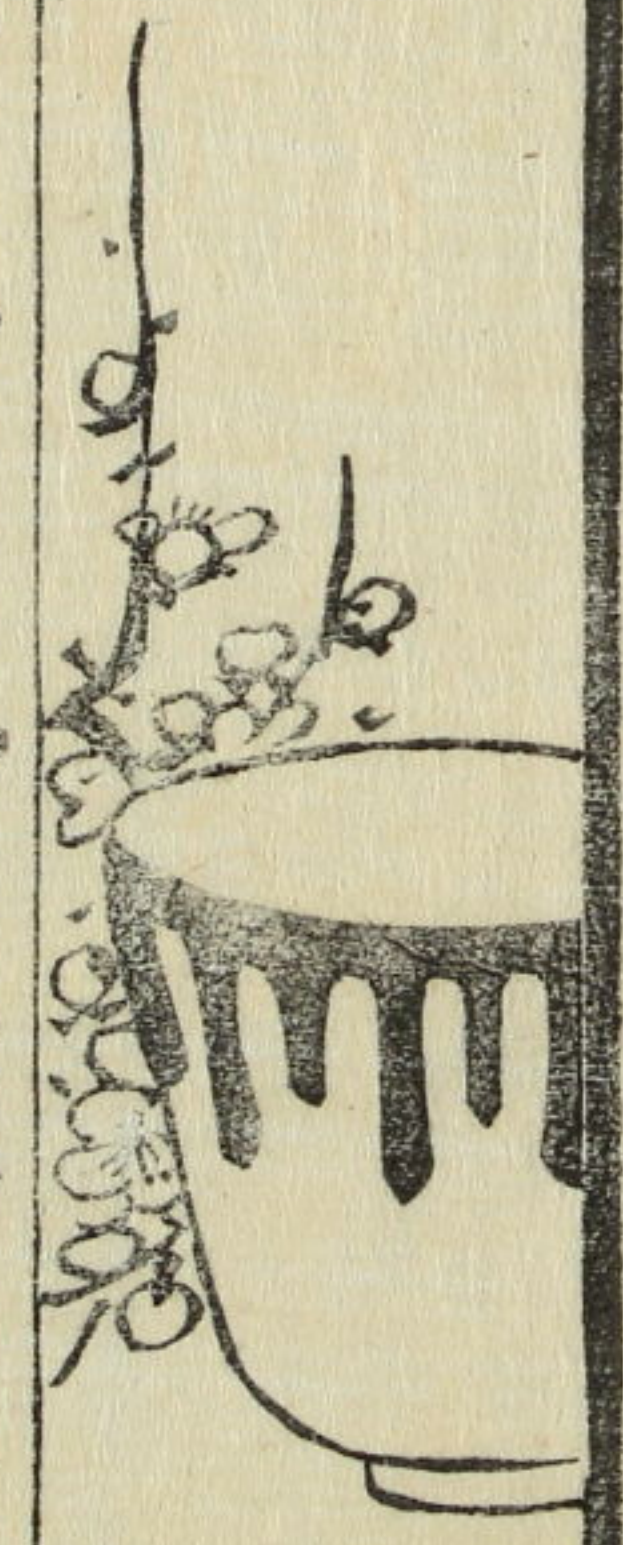
此作

萬年乃乃女翁仕こむくはま
筑紫大宰府天徳宮に
安住 梅も好く白の字書し全



門松乃雀の葉も種飾葉 祇紅
菫深川ハ君々去色
鳥居屋も未廣くハくは波 全
妻のめやめく手くを珠の鞆 全

此作



大鵬や今も名小なき所菜氷 立秀
書院能飾君賀鶯

此作

進法めく房むハ年々書 全



千声堂



大空小一の字あえり 知霞 碓月
萬物竹庵めし君乃今喰摘
俵鏡人々庭ふ留士あり年の書 全
雲の梅も花しワうをうも 全

此作

大空に糸脈の如く紙鳶

祇徳

鏡に雲の如く子宝

丸室

巻頭を雲よりや幣り天

馬清

曲りし一掃掃もは

祇汀

月影乃移る障子との如く

猪徳

筆に如くき鮭とさび結

祇招

柿葡萄作る如く世に

沾未

只一言く勝る成る云変

馳道

五朝ある塔中は小跡地を

祇木

争に師りし如く言の向は

祇言

毒の成業を成る如く温泉

如泥

志のひめくく名を立し一志

祇十

見流るく五十四帖ハ皆是見

祇勇

空海とくも虫干は如

祇白

瓜入の細の底うら履は

昌橋

井戸乃自燈も根を木の株

田鏡

花の帯月も如くも如

祇帆

ふ斗は如く一掃掃もは

祇負

ハ空を如く如法山の如く如

故道

衣乃下は羽織忌の尼

祇亭

大座は世よりも如く二つ如

枝辭

諸より如く知れぬ如く如

祇柳

伴勢落ハ机の上は一萬度

松架

痛く焼のハは如く如

龜永

天口は瀑布の流る中並	湖船
武藝ともけむ是利の可	祇船
何となく本とめく銀音敷	呂月
黄昏志んと活くる月	祇樂
深石とるんくすも揚心	松十
ゆけの娘の多い原川	祇流
閑帳傷りや事々々周亭	白拙
身がふしとて夜行く身白	雨朝
若行も板行よ成るありさき	九胡
いらは是くさく六十姑妻	祇英
一と集れ花咲かせる初日影	成義
雲雀と魚も遊ぶ西岸	松英

	<p>山くも笑おそや千代松春^女千林 御樓子^子諸多^多 咄^咄 山くハ笑支度^子く^く 全^全</p>		<p>多ふ申く玉川もあり初子水^女治鳳 梅や柳や御結^ちの^宮 夕暮や内外情浄煤拂^全</p>
--------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------



え日や起くれ月よ遠は彼^女 沾玉

御歌と形よ去始の富士

水

おまのやまをさるる露夜の梅^全

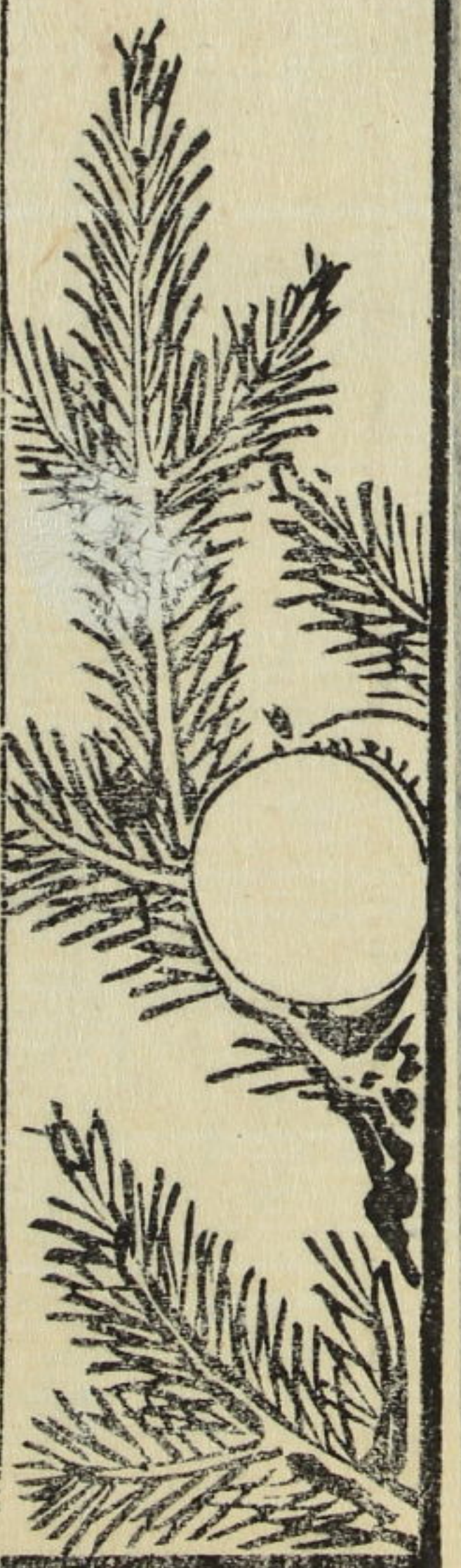


土器も屠獲の泉や千代八世^女 沾翠

振ると塵に御衣着水

水

やまはとも 鸚鵡へへやま^女 沾翠

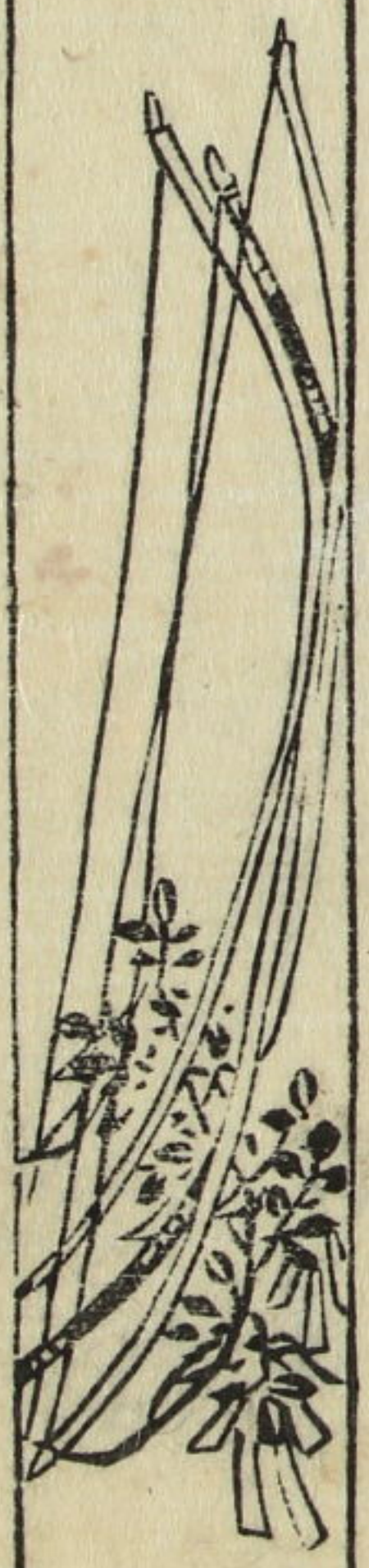


鞠垣や四は波よりき 松^女 沾光

岩城あり篁や紫葉は和鑑^全

お生乃松のもくや門の奏^女 沾樂

之流と空をよ弾くや^全 大世日



弦音も神代の奏よりそめ^女 祇月

扇をひく喜や侍らん^全 梅やき

常衣きつゝ雨戸は^全 照る花



山

書始や程よ春水の入加減サ 祇蝶

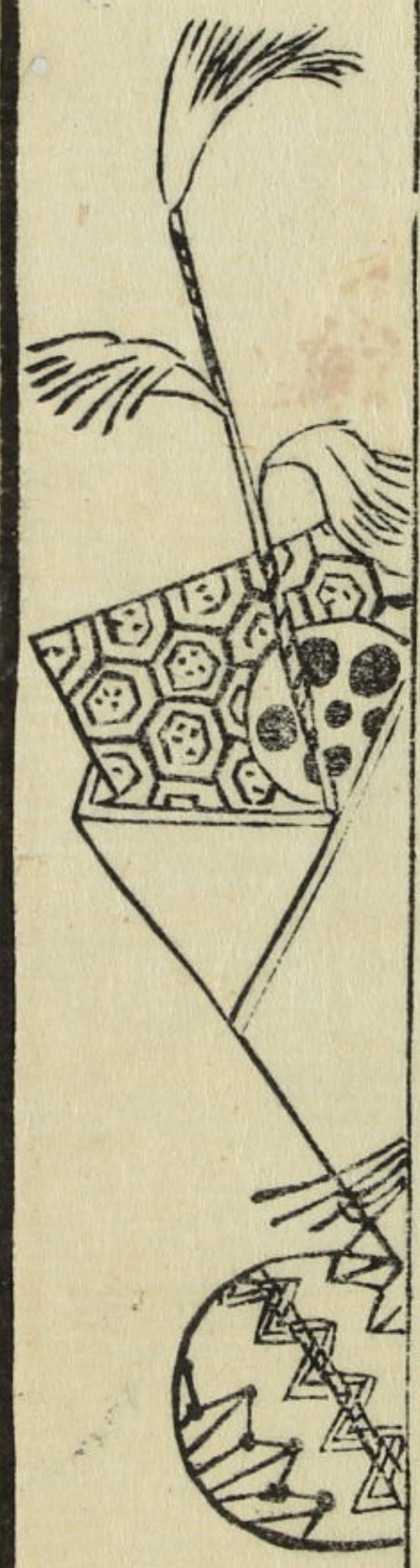
けり年と流るるや春の滝の糸 全

草を流るる河に花をむや小松川 全

え日や句のまふ士は山うらサ 祇紅

行くよ舟渡るるや船の松飾 全

一アんと庭にあきり 梅の花 全



羽子板とくは枝折や花の表サ 曙山
 房を移代言 燈をくは年と持くはり
 多かり侍妝の房や庭の面

歳旦 〇 〇 〇 〇

福藁はるもゆくく卯笑 卯平

歳旦歳末 〇 〇 〇 〇

あうらうや春雁へおのひ言上り 一古

未ひらく年お要む志ありり

我こころ 〇 〇 〇 〇

忽ち始終 燈ふくは庭や 有秀

我こころ ヒツ目あはれは
 忽ち大運得るる明の春

松の目付様... 国の... 碗

時成



妙り... 朝朗 萩窓

猪徳

男子と 儲



系... 尾跡

尾跡

め... 梅古

梅古



萩



其... 萩 茶

萩



作... 龍鷹

龍鷹

様々なるものもと稱すや後継
此二日二ツとつちる一一年の二巾
入るるよや洋をも家貴自在

馬清



又々々々々々々々々々々々々々々々
暗天の影ふや夜中くさるる年

祇考



おもいふや家も喜ば花の春
去くよ聲いさぬ人大時日

枝辭

朝起の蒸あつらふ花の春
神詣はる月ひと川とさるる

樽雪改

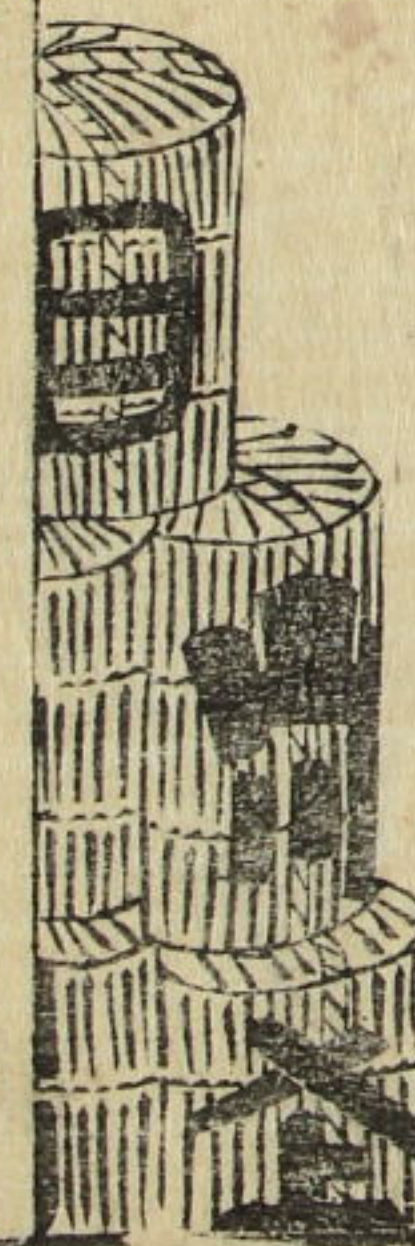
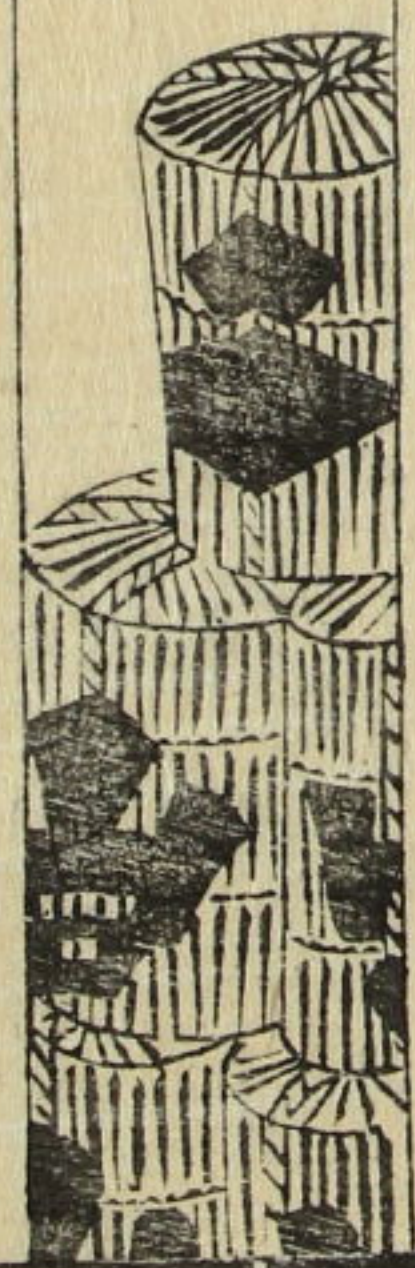
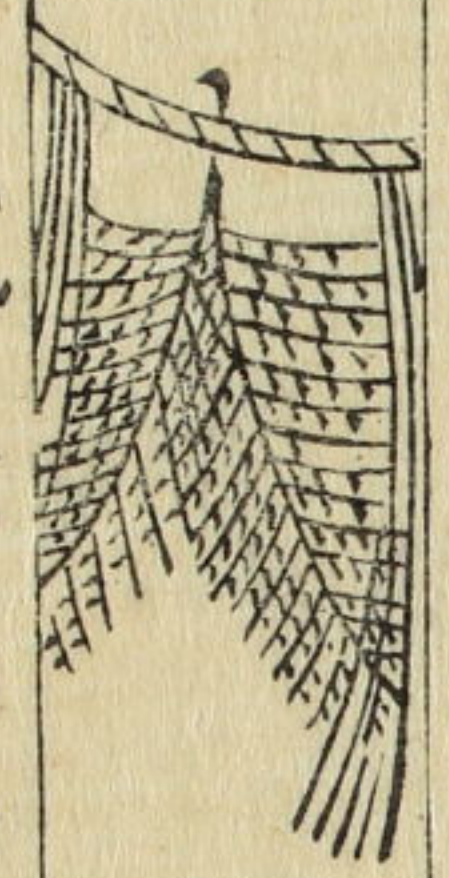
馳道



いく千代の歌はるや七五三飾
こころんも枕や深夜の梅
長あふる日お経るるる柳うる

玉客改

右始



山川と始るや千代の粉飾
山川とさるるや年の布

昌喬

今朝の吉兆代新多入る神乐
夕の吉兆代新多入る神乐
津先の代と振つた吉兆代新多入る

夜琴亭

松十

嘉例之歳旦

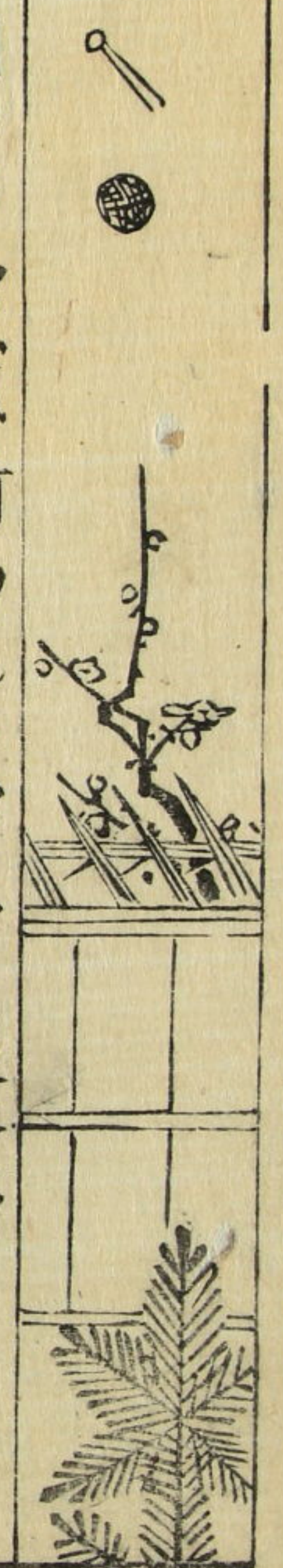
松竹の吉兆代新多入る神乐
竹の吉兆代新多入る神乐
万代も梅の系作け亀戸村

東吉甫

竹苞

鬼ハ外へちけ福あり磨菴扇
西の梅の厄ハ柵へまきまらぬ

亀戸



松の吉兆
門ハたれぬ川風く磨菴の松

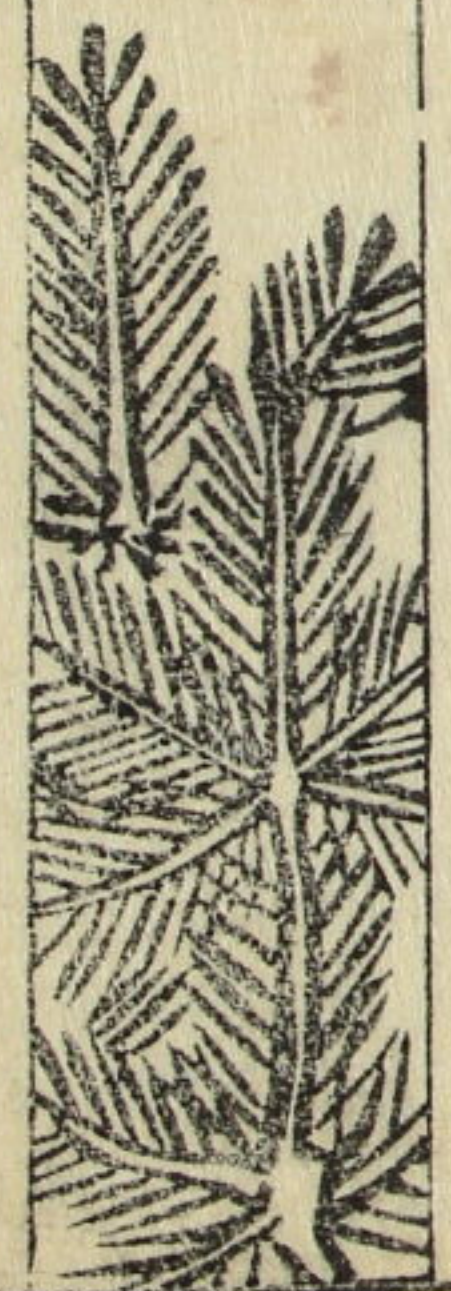
祇汀

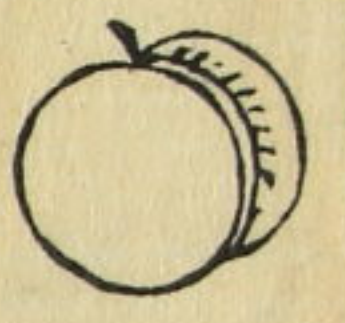
松竹の枝葉白まけるおの女
初元乃をを降中梅乃咲

來儀

梅の吉兆
梅の系作け柵へまきまらぬ

祇貢





重袴小松と出り川花の香
重袴小松と出り川花の香

祇白



本地を神戸今曙乃神の香
まはるめえり年および指

雪更



島基屋は礎より一糸の春
お領の御紋帯一糸の春

若風舎
祇樂

千代と呼ぶ名を枝度一松在
まはるめえり年および指

祇木



えり白の香も一糸の香
神楽の御紋帯一糸の香

東川

老松や此上千々お印の香
おまはるめえり年および指

秀幸

春満
おまはるめえり年および指

春満



墨水よりせハ

書如乃彼よりうぬる田川
餅と格牙の橋く年の岸

柴十

所家女柳の飾戸初夢湯
鞠場中松もろも小妻と付

かん



色も海人衣の小松戸今朝墨
松小善花小晴名とく如山

竹賀

◎ ◎

ゆる原松も鳥早き水慶が

故周



年如運斗き初る福出より
見度セハ市は常色や福聚海

沾古

亀定亭

此如く不實形か一 勢松
父も如年致茶をく松くと

亀交



一色乃松の葉戸心の虫
手はさハ梅のよくくや年と電

三峯

富士庵



年ひくつ松くくも一花の美
石蓮の影の果報や云 配

山橋



西節

茶の半や茶の味く春はを重
まは皮をつけくや年のま

花月

且暮

よいつれをふり咲く花は
よい吐やや半まは伏見船

九胡

三章

蓬萊の如く結つてくまの氣が
二日とくくく如くまや梅の
多形かく通ふと半あうまの真

祇岳

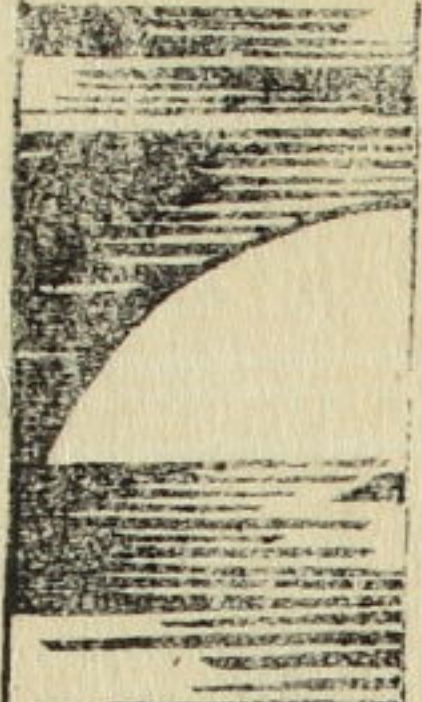
元旦

萬代の龜戸は氏子門の松

吐屑

水乃きけぬ井のうら
暮る象戯老は降るまは

亀永



いく千代もかりく如色の卯日か

女東朝

元旦宵興

御飾ハ物毎丸きまふりあか
かき餅乃鏡子白くくまの如

桃牛

夕陽の如く飾や廣のま
魚舟もあもは走の如くあ

古閣



市船ハ浮橋多仲戸年始
と船入も中う交うく梅をが

牛渚

松竹の色うぬく初日

連味

松竹の春乃色あり年の市

里磨

内易持も亡是もとも川流

程くも里く初てえよ年市

奇松

上中姑姓心曉一御代の妻

友龍

少くも多君姓あや海の手

厄しつ小灘と紙一り

寶船

人毎小初日姓色亡今朝姓春

可英

松まきく多君姓あや海の手

万葉や立すく人も多の門

聞之

晴島名しえ一ハ是もとも川流



あかりのや扇あまけり初日景

蟻口

め酒よさるもめてくや大梅日



日くふ新小のくち初日景

柳髪

梅よまどくきくつ海流のうか初日



八五里續く緑戸江戸の女

拍傍

雛子磨羨とくせん今朝の云 祇柙
舞子花と吹雪とくを侍如

あま玉のるるふびくや人心 歌京

曉の鐘いさきより一太西

柳鏡くま小光あり玉の去 淵龍

花とささ道の歩踏や年撫美

宮巡土産得よりサ路ひら

月立もの女しりり流の詩 芝蔴

嘗れ迫身花吹雪より梨

歳旦 麴坊御連

福葉乃鼻毛のひらう花の去 亀連

橙はいよし赤一卯日影 志雪

まきくしと卯日のもろや門飾 李嶂

門松小陸と知り知年の供 素静

卯鶏の舞も卯慶は調ふる 祇桐

海糸戸の川と旭の卯も水 牛社

今朝ハも白江戸は赤と哈難き 曉雨

掛網は松竹居の戸之三ッ道 市突

かきくや住めハ朝のソ花の夢 素影

若姫戸祝のあものあは 仙潭

門思くくくつる恵戸鏡餅 溜川

え日やまきのふの蒼りふの花 月汀

○ ○ ○ ○ ○

百薬之長武屠獲能醉心 田鏡

一ふは春ふふあふふ年ふ羊俵

○ ○ ○ ○ ○

喰摘れ寝の山や 此代の春 深籬

天地の恵と得てうづ子羊俵

○ ○ ○ ○ ○

○ 終上朝 名らん春の旅 五回

○ ○ ○ ○ ○

お生波松のちるる魚や花の女 聖鳥

梅うまハまのけりるるや年の差

ゆぬ種に室も格別千代の春 文交

○ ○ ○ ○ ○ 文餘堂

蓬萊の島もあふる御堂 藤閣

世の日記消くははる世日園

御代の云あふ玉 松 天香窟 麗々

國の使やあふる帝御殿

○ ○ ○ ○ ○

え日まゆらや名は御座候 田中氏 楚山

○ ○ ○ ○ ○ 豆初伊東

今テ朝屠獲の子ふ包七加減 春乙

海波のあふるや 齋ふ松のん

のふやくふるの海や糸柳

門松也ききもの立今朝の云 女 梅芥

佳俗い壺

柏里舎

今日無夏糸綴と扇斗具此中意 和風

杉径の能細く如やとく 忘

初日より梅あきあきあき 竹丸

今年の屋やあき他より警 鏡

いさきうくまのたけ 微風

今年今も 千花

え日や 而 后 楚根

大牛齋連中



赤きもの 一柳

松をま鶴のち 寿ト

え日や 錦江

茶代や花の 遊味

松竹 味厚

掌中 吐音

く 雨朝

早 文水

松 祇招

其影 止晷

龜の脊を門くくろまや明の春
 到来
 竹勢のしめ多と秀多り飾馬毛
 如泥
 いざさくは君の懐安と多きしめ
 歌明
 多形は此年おる戸おまか
 祇鶴

卯尚御陣中



亀の脊を賣飛へ萬春
 沾禾
 舞の屋や松竹降く千代の春
 湖船
 空始白くけり多ま鷹の羽
 麦声
 々々や松の掛多る雀の羽
 嘉楽
 春際きる名の物や松の色
 祇船
 鄙しくと吾嬬はまや一町の春
 祇流

紫よつ君は町路に江戸の春
 祇鳥
 竹まを並つて孫の町路うま
 此君




おきぬや吾妻美に門飾
 白鳳
 松舟の花とてや花飾あは
 其敬
 冥加ふや物敷ふは門の春
 光雌
 門増きや当りまうぬ松の春
 禾山

寿
 吉らふや波静るる響め糸
 沾文
 春のつらあましめや福寿草
 秀禾
 春くま松の美きよき影
 雨竹
 福徳壽延よきき卯日か
 不全

一まのり羽と伸のり産や日始 沾蝶

門松と見透る空も初より 葵志

空ふくもつる士よの心 初日里橋

壽   

若得君の千代ませ松のま 味星

帰帰や千代萬世のま 儲

まきまき産の産いふまよ 千代のま 花筵



も柳もも妻福と得るう年の布 味耕

え日と記くくや産の産いふま 一貫

信船宗味よきくくおみるくが




常盤から花や恵の柳代のま

花よあはハ喜降くくせ年の道

哉旦 冬くー 瑞ふるもの産産うまき 収のああり  

手の山跡ゆく哉より名お喜日 女千枝

積もる信や喜くくむくあ留士

壽    信乃齋

若う代の恵みき宗一今朝の弟二 角丸

雪とせくく首もあめやくくお喜

魁乃梅のま福口一二人

壽    一筆齋

めくくくく手試ん福祿寿 文調

壽    古學竹堂

曉やみくく別く 縁かうく 空水

あまのり縁とくくお厚ま

太倉

肆陣申



壽

白

白

老や母やかかりぬ門乃松の春

十掃

古語申し世言是貴人年の暮

壽

白

白

喰福や林蔭の歯奈小筆の松

桂舎

春のもの先月々嬉し手の手

壽

白

白

宇宙小雀の羽と展初日引

祇明

千秋の緑や露夜の門の色

嘉例之祝吟

白

白

颯くはる他如や杉のうり

柏笥

沼年やまをまきおき押きて

壽

白

白

竹葉や羽子宮身お赤の花の美

東里

卯明も春と降る乃宮おのる

壽

白

白

よひのちの種お時や今朝を

豊調

宮まはるまきや津夜のおの笑

壽

白

白

おの嶽ふらう縁およ門の松

松有

おもくらく酒めりり年忘

壽

◎◎◎

山重水复根生の竹と地のみくら

信夕

羽葦より黒柳の煉掃ひらり

壽

◎

◎

一の字のけさるけ勢や飾炭

文酸

一の字のけちるま一年の市

壽

◎

◎

いく千代も替りぬまはちあまが

溪雨

梅まけくま待る名はる情が

壽

◎

◎

嗽くまもま垂や梅乃さ

祇蘭

まこんとまはる鐘やち晦日

家例之壽章

◎◎◎

物無小物とて厚くより千代の名

文旅

梅まよるけさる花ははくさ

移り行年もろくぬけ塩松魚

壽章軸

◎◎◎◎

はこもろく唯一まこし印さ

成羨

いふかきくまき川竹の一夜が

壽

◎◎◎

詩心勢よ吟漢乃又よ梅の花

芦刀初

新の鳥と梅雪の枝や梅の花

柳糸

中庭の梅友をよみ梅梅の音

春車

お梅や香も枝よりも花の輝

義水

壽



え日やこころは松の傍り姫

羊秋

はるのよと知れぬ旅人年の暮

壽



三橋

あつらふや金龍山の如日影

、

難言やめくまきまじま山

壽



、

投扇のよある年む扇みみ

、

花火餅の金やもあるや年の市

壽



、

案内もは言おろし海の花

一巴

鼻、鼻亦鼻鼻下海の花

貞賀

壽



松のふしのまゝぬれ針や忠代の雲

樓堤

月影や地も原走の日の暮

壽

松、野、ま



雀まゝくまきまを向や竹飾

冬扇

あゝあゝあゝあゝ餅の柳うさ

壽

へうま御、住と、つ、ま、
五、ま、の、う、く、あ、う、く、し



いもあはれまゝ印着せまは江戸の文

満明

壽



松竹の詩儼くや印代の雲

、

鶯の囀も羽も松乃仕のふ

、

壽

上総姉崎



申のくも雲にまはれ今朝のま五味香 祇調

句のや言解よ移る山の味

常春是も所まのまのふ

陽まの陽の一ウのや人ま望月高 祇山

大空のくもぬるまや石中

福の内鬼ハ外く福ハ内

糸も人も能く有るま始 龜仙堂 祇蓬

さくらくままのまのまのま

赤坂の奴く虎や二平の隠

あも笑ハ山も笑や人ハ軽のま 祇谷

壽



壽

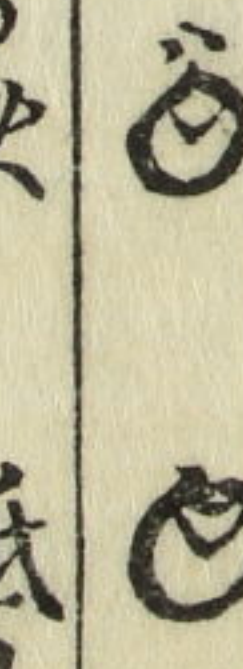


醫心乃唇獲乃壺より明のま 祇英

花のまのまハ合点を望のま

まのま 祇もち出ま暉天儀

壽



まのま 今朝やまのまのま 祇仲

壽



よりのまのまのまのまのまのま 女 千頂

上まのまのまのまのまのまのま

定紋のまのまのまのまのま 女 千喜

羽まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

観音ねあまそ〜千代の妻 祇存
 嫁〜〜〜祝儀や千代の妻 磯富
 酒の心笑ふな〜ハ福喜多留 葵舎
 一對の雛〜あ〜〜後餅 京吉
 塩梅も末〜あ〜〜ハ屠蘇雑煮 大萬屋
 大小乃額と〜あ〜〜ハおん年玉 古残
 ち〜〜〜〜あ〜〜〜ハお代のみ 文車
 吉〜〜〜〜あ〜〜〜ハおの妻 小瓶
 軸
 世の中も飾〜あ〜〜ハおの妻 丸室
永谷の縁起
 飾〜〜〜〜あ〜〜〜ハおの千を松
 別〜〜〜〜あ〜〜〜ハおの柳か

豊之後州

日田

永山御連



玉〜〜〜〜あ〜〜〜ハお代の松扇良

海山も〜あ〜〜〜ハおの蓬茶

祇徳

面〜〜〜〜あ〜〜〜ハおの自在嘉儀全



六〜〜〜〜あ〜〜〜ハおの始の柳

松架

餅花も〜あ〜〜〜ハおの喜多留

明〜〜〜〜あ〜〜〜ハおの長者お庭梅 巽我

〜〜〜〜あ〜〜〜ハおの角あ〜〜〜ハおの丸い物

非の	角	み	字	飾	あり	素友
浦	安	や	も	く	と	志
緑	も	能	き	千	代	の
以	進	心	福	也	也	も
福	と	書	れ	ま	に	子
昔	閑	心	心	心	心	心
大	福	や	一	室	船	の
亦	ホ	一	室	船	の	神
能	い	ま	に	甲	き	也
五	十	六	十	年	の	年
第	一	年	の	松	竹	の
亦	も	め	に	る	も	也

湖	時	雨
青	荷	、
千	夕	、
魚	鱒	、
岳	飛	、
青	角	、
桃	湖	、
寶	、	、

四ノ段を
三ノ段ハ

くけもちけしるる唐一雜糞椀	鳳水
鷹は尾近石椀は	、
梅々もへく物あくくは連る	、
くは波や申くふつて海下病	、
和宮之幸登る西一常盤山	、
種ふく入船は舟一と舟者	、
東の月や入る船松竹あもむ始	、
園と掃く高吹やとけな時	、
東一信の幸は景一内門飾	、
雲物のおもひや一年の市	、
おもしろのきもいさま一と松の糸	、
梅の糸とまきくくさる一十年一夜	、

やくそくハたりん花の糸の糸	筆馬
とけ埃拂くハ多の一庭の雪	、
あま尾梅とかりやとけ川流	、
<small>旧年の</small> 志はあやも吉楚くもの味	、
えあ一東より花の去	湖連
いさまや網も信もとくを電	、
<small>おさうり</small> あまを核の糸の産陽るお日とさう	、
<small>旗は</small> 正さや正ま寶徳信船	、
<small>心も</small> 着いこの病ハ福葉大節	、
<small>心も</small> 星のくちやをる一季は境川	、
吉例之歳旦	、
ふる者は礎くく一鏡餅	、
斗竜	、



五ふ字ハまご片言ハ桂ニフ鳳翠

柳屋乃竹ヲ修ムルノ旨

法座

四所々も回一は世の喧嘩ハ金

まご まご まご まご まご まご まご まご まご まご

正性乃鼻の茵一ハ梅の花末白

まご まご まご まご まご まご まご まご まご まご

ふんま〜陰ハ梅乃白ハコノ瀧曉

まご まご まご まご まご まご まご まご まご まご

此枝も浦之ハ画ノ花ノ花 亀山



雪ハ初マの〜ハ梅の鏡 雑花 春郎

寶盡 まご まご まご 法座

雪ノ細ハ山田ヲ修ムル澤布の吉 兼成

雞ヤ〜 まご まご まご まご まご まご まご まご まご まご 爲督

梅又〜 まご まご まご まご まご まご まご まご まご まご 爲督

市川ハ罪ニ交通ハ梅又ハ 母谷

己ハ毫既ハ極限ヲ越ルハ梅 亀溪



多程伸ととせたる 柳か 昇鯉

隠神全まてもあま〜年の雲

和くそ有るるやふき 柳こゆ 豆雨

金銀乃志砂や富子餅苴

そるそ捲く袖ぬる〜とそ葉か 素英

そるそ〜や娘の舞の〜年の雲

窓あ〜に揚よ小判よ梅の花 白抄

後とある機のもえや糸柳 魚躍

高興

咲こほ結きのあ子の口は世路の梅 樓川

園のさよ晴〜起や梅の花 鶏口

担公の酔〜くや陰む水の月 在轉

夜歩り口日向〜度る猪の意 小知

那の梅や一節ふきち解送 田女

朝寝〜るもむ産や 松の飯 金洞

梅のむ〜る〜玉とあま〜り 笑天



吸るの袖〜る〜あつ梅つらぬ 文魚

大道は雞つらむ師走か

守歳

守歳 守る 守る 守る 守る

出 守る 守る 守る 守る

ふく余と守るよき守るよき守る

風徳

おもく守る守るのこ守る守る守る

尾谷

柳守る餅の守る守る守る守る

冠露

おのり千代守る守る守る守る

梅車

光陰の守る守る守る守る

巨蓮

只守る守る守る守る守る守る

湖蓮

西行の守る守る守る守る守る

徳英

年尾

守る守る守る守る守る

守る守る守る守る守る

空色守る心の守る守る守る

朱英

願く守る守る守る守る守る

雙鳥

く守る守る守る守る守る守る

鵬羽

守歳

守る守る守る守る守る

守る守る守る守る守る

闇の守る守る守る守る守る

慎秋

和雞の守る守る守る守る守る

令堂

採蓮守る守る守る守る守る

閑江

古守る守る守る守る守る守る

泉之

且守る守る守る守る守る守る

塵匣

セリ保

守る守る守る守る守る

守る守る守る守る守る

隠守る守る守る守る守る守る

村松

行年守る守る守る守る守る守る

専里

年尾

守る守る守る守る守る

守る守る守る守る守る

守る守る守る守る守る守る

崇陽

守る守る守る守る守る守る

宗浦

勢いふ



煉掃まきし埃うねり古磨

泰郷

糸くし波もて通れ自の波

雲子

年尾



糸まきく去秋帰る年の鳥

未来

人並ふる貴も降夜の自在釜

午月

早業



かきけ子の海波くりや居る鳥

友笑

煤掃の道まあり朝業の端

松家

餅かきく花盗人や堀り君

春里

入船乃永代捨や年々善

得舟

京の業も江戸よまの春の妻

大江

調度石巴と糸衣は師是か

鱗水

三弦も遠くふ遊年々終ぬ

橋友

せい原



掛乞も軒端の糸巾や一夜窓雪

夜の更る程糸ハ糸一六廿日

馬遊

ちん本



夕歌の五条法師おろく

米駒

町見の山と歌く戸年惜み

壮谷

中本業



年の豆足と今宵甘露が

三外

大海の花よハ迎ききろが

中車

獅子おほけまきまき少くむく師是か

里虹

子に花をばいふのをめえつ年志	玉志
まへに手はけけをあら松の振	八橋
まをれは使さくもり大市日	女志
安足をー大務性や大西日	松武
柳今くまくと儲やあう船	味扇
セリほ	一瓢
年の尾小む種まりや鏡窓	市郎
雀まう春まち歌の踊り	市郎
猪子くは人もあるくは市	蘭示
おらうは中半旦彫く春まち如	松奥
	又刀

七五五

世話くまや花ういそ如月日ま	存義
まよりく年もアては多あ鏡	實明
今日み成く私大乃國申ー	樓川
糊塵く日と招きりり年の業	百萬
まいしをたわ終るんは業	鶏口
年く工捷徑ま如師まが	祇丞
ま承き果報と一夜病まけん	多步
花まらも人一まり年情	温克
おとしの師走むつう一巻はひ	在轉
年の夜や状賃とままはる序	小知
ま賃をうりく小町の果ふる	田女

何様の公髪又々川年のうた 秀國
 海を渡る舟子ハあゝあゝ納豆系 可因
 以年や手も大津の追かき 常仙
 湯もも男の裾を千葉笑 金洞
 平波の夜分ハささるも川千鳥 宗梅
 月花の外ももちの女也か 葵足
 鴨籠一重ハ連や海の家 菊堂
 春待下言世乃金の山嶽 白頭
 杉の屋や千代の師走のめり唄 笑天
 汗年乃庵まわしハおとろ極 保牛
 望こしハ聞系さしハ年忘 留倫
 春ハ道ぞん庵乃炭 俵 連馬

守歳



祇船画

爆竹掃戸系神棚乃御遷宮 祇徳

土まき屋小鷹内外精浄 瀨長

上下ニ女ヲ守ルも細ユハハ流ル 祇喬

安永乙未彌生吉日

深川森下町
 彫工 荒木又刀

春森齋

清園

海淵

花田孫吉

以孫子